

## 調査レポート

# 2013年1～3月期のGDP(1次速報)予測

5月16日に公表予定の2013年1～3月期の実質GDP成長率は、前期比+0.7%(年率換算+2.7%)となったと見込まれる。内需が個人消費を中心に堅調に推移していることに加え、外需も前期比プラスに転じたと考えられ、景気が昨年中に底を打った後、順調に回復してきていることを確認する結果になりそうだ。

前期比で大きく伸びる最大の要因は、個人消費の力強い伸びである。個人消費は所得情勢が厳しいにもかかわらず、景気回復期待の高まりや雇用情勢に回復の動きがみられることを反映して、前期比で大幅なプラスになったと予想される。また、設備投資も、小幅ながら5四半期ぶりに前期比プラスに転じた見込みである。公共投資は、これまで高い伸びが続いてきたこともあって増加が一服した可能性があるが、政府消費を中心に官公需は増加基調を維持したと考えられる。外需寄与度は輸出が前期比で増加に転じたことを受けて、4四半期ぶりにプラスに転じたとみられる。

名目GDPも前期比+0.6%(年率換算+2.5%)と4四半期ぶりにプラスに転じたと予想される。一方、GDPデフレーターは前年同期比-0.8%とマイナスが続いたと見込まれる。

	2011年	2012年				2013年
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
実質GDP	0.1	1.5	-0.2	-0.9	0.0	0.7
同(年率)	0.4	6.1	-0.9	-3.7	0.2	2.7
同(前年同期比)	-0.3	3.4	3.9	0.4	0.5	-0.4
内需寄与度(*)	0.8	1.3	0.0	-0.2	0.2	0.5
個人消費	0.5	1.2	-0.0	-0.5	0.5	0.9
住宅投資	-0.9	-1.7	2.2	1.7	3.5	-1.7
設備投資	8.0	-2.5	-0.1	-3.3	-1.5	0.8
民間在庫(*)	-0.4	0.3	-0.4	0.2	-0.2	-0.2
政府最終消費	0.3	1.5	0.4	0.4	0.7	0.3
公共投資	-3.1	8.5	6.2	2.6	1.8	-0.3
外需寄与度(*)	-0.7	0.2	-0.3	-0.7	-0.2	0.1
輸出	-3.1	3.4	0.0	-5.1	-3.7	2.8
輸入	1.7	2.1	1.7	-0.5	-2.3	1.5
名目GDP	-0.1	1.4	-0.5	-1.0	-0.3	0.6
同(年率)	-0.6	5.7	-2.1	-4.1	-1.3	2.5
同(前年同期比)	-1.8	2.3	2.9	-0.4	-0.2	-1.3
GDPデフレーター (前年同期比)	-1.5	-1.1	-1.0	-0.8	-0.7	-0.8

(注) 内需寄与度、民間在庫、外需寄与度は実質GDPに対する寄与度  
(出所) 内閣府「四半期別GDP速報」

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 小林 真一郎 ( chosa-report@murc.jp )

〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2

TEL: 03-6733-1070

需要項目別の動向は以下の通りである。

個人消費（前期比実質 + 0.9%）

個人消費は、所得情勢が厳しい中であっても、景気回復期待が高まっていることや、雇用情勢に持ち直しの動きがみられることを受けて順調な増加が続いた見込みである。各種販売統計や家計調査の消費支出などの経済指標も改善傾向にある。

住宅投資（前期比実質 - 1.7%）

住宅着工件数は緩やかに増加しているが、住宅投資は一時的に前期比でマイナスに転じた可能性がある。

設備投資（前期比実質 + 0.8%）

企業業績の改善が進みつつあることや、企業の景況感が持ち直してきていることを反映して、これまで先送りしてきた投資が出始めたと考えられ、小幅ながら5四半期ぶりに前期比でプラスに転じたと見込まれる。資本財（除く輸送機械）の出荷も増加に転じている。

在庫投資（前期比実質寄与度 - 0.2%）

製造業を中心に在庫調整の動きが続いており、在庫投資のGDP成長率に対する寄与度はマイナスが続いたと見込まれる。

政府最終消費支出（前期比実質 + 0.3%）

医療費などを中心に政府サービスに対する需要が増加基調にあることから、引き続き前期比で増加した可能性が高い。

公共投資（前期比実質 - 0.3%）

復興関連の補正予算の執行が本格化していることを受けて増加基調にあるものの、すでに水準が高くなっており、3月の公共工事請負額の結果などから判断すると、一時的に動きが弱まった可能性がある。

外需（前期比実質寄与度 + 0.1%、輸出：前期比実質 + 2.8%、輸入：同 + 1.5%）

輸出は、米国向け自動車輸出などを中心に持ち直しつつあり、前期比で増加に転じたと見込まれる。一方、輸入も、前期比で増加したと見込まれるが、輸出の伸びは下回ったと予想される。この結果、外需のGDP成長率に対する寄与度は + 0.1% と小幅ながら4四半期ぶりにプラスに転じた模様である。

GDPデフレーター（前年同期比 - 0.8%）

物価の下落基調に変化はなく、GDPデフレーターは前年比 - 0.8% と引き続きマイナスで推移しているとみられる。

- ご利用に際して -

- 1 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 1 また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 1 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 1 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 1 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。